

1 題材 思い出の服をリメイクしよう 内容A－（3）ウ （関連項目 B－（4）イ）

2 指導観

・題材観

近年、社会や環境の急激な変化は、私たちの衣生活にも大きな影響を与えている。多種多様な繊維や織物が開発され、大量に生産されるようになった。その結果、安価で手軽に入手できる衣類が増えたため、家庭で手作りする機会は減少してきた。また、衣類の手入れが楽になるにしたがって、生徒が洗濯やアイロンかけなどをする機会も減少している。また、少子化や地域社会の関係の希薄化により、不用になった衣服を人にゆずるという習慣も薄れつつある。しかし、衣服をつくるためには、原料やエネルギーなどが費やされていることに気付き、衣服を大切に着用し、不用になったものは再利用や処分の仕方を工夫することは大切なことである。また、衣類を長く着るために手入れや補修の方法を身に付けることは必要であると考え、本題材を設定した。

・生徒観

ファッションの流行やコーディネートに対して関心が高いが、衣服の手入れや補修等を、自分でやっている生徒は少ない。特に、ボタン付けなど日常の補修を自分でやっている生徒は非常に少なく、小学校で学習した手縫いの基礎的な事項が確実に定着しているとは言いにくい。さらに、小さくなった衣服や着なくなった衣服はごみとして簡単に捨ててしまう傾向も見られる。しかし、被服製作にかかわる体験については、印象に残っている生徒も多く、小学校で製作したエプロンやナップサックなどを学校生活で活用している生徒も多く見られる。

・指導観

そこで指導に当たっては、生徒が興味・関心をもって学習に取り組めるよう、自分の不用になった衣服を利用させる。練習布に「まつり縫い」などをするだけでは、生徒の学ぶ意欲を高めることにはつながらない。自分の服にはそれぞれの思い出があり、それを利用して一つの作品を完成させることにより、達成感や成就感を味わわせることができると考える。また、製作手順は同じでも、出来上がる小物は実生活で活用できるものを各自で選択させることにより、「作ってみたい」という生徒の意欲を喚起させることができる。製作手順の中には、「アイロンかけ」「まつり縫い」「スナップつけ」「ミシン縫い」などの基礎的な学習事項を取り入れるようにした。その際、拡大模型や段階標本などを準備して生徒の理解を助けることで、技能の定着を図りながら、短時間で製作できるようにした。製作を通して、衣服の手入れや補修の仕方を身に付けさせ、実生活でも自分の衣服の補修は自分でできるようにさせたい。

このように、不用になった衣服を利用することで、リユース・リフォーム・リサイクルを考え、資源を有効活用していく態度を身に付けさせたい。

3 指導目標

- ・ 不用になった衣服のリメイクに関心をもって取り組ませる。 (関心・意欲・態度)
- ・ 不用になった服からデザインを工夫し、リメイク作品を考えさせる。 (工夫創造)
- ・ しるし付け、裁断、アイロンかけ、まつり縫い、スナップ付け、ミシン縫いができるようにする。 (技能)

- ・ 不用になった衣類の再利用や処分の仕方を理解させる。

(知識・理解)

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	工夫創造	技能	知識・理解
<p>ア 衣服の再利用を考え、衣服を準備し、製作活動に取り組んでいる。</p> <p>イ 環境や消費に配慮した衣服のリユース・リフォーム・リサイクルをしようとしている。</p>	<p>ア リメイク作品の用途を考え、衣服の利用・製作品のデザインを工夫することができる。</p>	<p>ア しるし付け、裁断、アイロンかけ、まつり縫い、スナップ付け、ミシン縫いができる。</p>	<p>ア しるし付け、裁断、アイロンかけ、まつり縫い、スナップ付け、ミシン縫いの方法を理解している。</p> <p>イ 環境や消費に配慮した衣生活の方法が分かる。</p>

5 指導計画（全5時間）

学びの過程	主な学習事項（学習課題）	時配	教師の主な支援	評価規準
気付く (課題設定)	リメイク作品を考えよう	1 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品の用途やデザインを考えやすいように、完成見本やリメイク作品例を示す。 ・ 製作手順を段階標本を用いて説明する。 	関・意・態ア 工夫創造ア
見通し・ 追求する	リメイク作品を作ろう	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ まつり縫いやスナップ付けを拡大模型やコンテンツを用いて説明する。 	関・意・態ア 技能ア 知識理解ア
まとめ・広げる (交流) 見つめ・生かす	作品発表会をしよう	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各自のアイデア・作品に対する想いを発表し合うことにより、再利用する利点を確認する。 	関・意・態イ 知識理解イ

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・ 衣服の再利用を考え、リメイク作品のデザインを考えることができる。

(2) 本時の評価規準

- ・ 衣服の再利用を考え、衣服を準備し、製作計画に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)
- ・ リメイク作品の用途を考え、衣服の利用・製作品のデザインを工夫することができる。

(工夫創造)

(3) 本時の学習指導過程

過程	学習活動	教師の指導・支援	評価とその支援
課題の把握	1 持参した不用になった衣服を確認する。 2 本時の学習目標を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content; margin-left: 20px;">リメイク作品を考えよう！</div>	1-1 持参した服の思い出を記入させることにより，服への愛着をもたせる。 2-1 不用になった衣服の活用法として再利用（リメイク）する方法があることを確認する。	
課題解決の準備・実行	3 自分の家庭生活の振り返り，製作する作品を決める。 ・ 持参した服が活用できるデザインを考える。 例) イラスト（模様） ポケット ボタン など 4 製作する作品の，出来上がり図と製作手順を記入する。 ・ 出来上がり図 ・ 寸法 ・ 服のどの部分を使うのか ・ 製作手順	3-1 再利用の例として身近な小物入れを示し，各自で選択して製作することを伝える。 3-2 デザインの参考に完成見本やリメイク作品を示す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content; margin-left: 20px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ ポケットティッシュカバー ・ お弁当袋 ・ リコーダー入れ ・ リメイクバッグ ・ その他（筆箱など） </div> 3-3 衣服の特徴を生かして作品を製作するよう促す。 4-1 段階標本を用いて説明する。その際，製作におけるループリックを示し，作業内容を確認する。	【工夫・創造(ア)】 衣服の特徴を生かした工夫をしている。 〈ワークシート〉 →何を入れるための小物かを考えさせる。 【関心・意欲・態度(ア)】 衣服の再利用を考え，製作計画に，取り組んでいる。〈観察〉 →完成見本や段階標本により確認させる。
評価・実践化	5 ワークシートにより，学習内容を確認する。 ・ 自己評価をする 6 次時の活動を確認する。	5-1 服をリメイクすることにより，思い出の服に新しい役割が生まれることを確認し，資源の有効利用につながることを伝える。 6-1 次からの作業の見通しを持てるように，段階見本を示す。	